

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 廣畑 貴一
所属 (School) 工学域 物質化学系学類
学年 (Grade) 3 年

留学先 (Name of overseas institution)
Australia
留学期間 (study abroad period)
2019/8/20~2019/9/22

記入日 (Date) 2019/9/29

留学レポート Study Abroad Report

この度、約 1 ヶ月のオーストラリア短期個人留学プログラム(ME)に参加させていただきました。留学は大学に入ってからずっと考えており、今回このプログラムに決めたのは英語圏の国であり、月～金までの英語の集中講座および 1 ヶ月間のホームステイという研修内容が非常に魅力的であったからです。この海外留学に行くまで海外に一度も行ったことがなかったのですが、事前のガイダンス等できちんと説明があり、特に不安を感じることなく現地へ向かうことができました。留学前の準備としては特に何もせず、留学後に受験する TOEIC の勉強をしていたくらいでした。しかし、当然ながら現地では全て英語でのコミュニケーションなので、日常会話やお店での店員さんとのやり取りなどが初めからスムーズにできるように英語のフレーズや日常会話などをまとめた本などで勉強しておくよかったかなと感じました。

現地では自分が期待していたように英語で話す環境にどっぷりと浸かることができました。平日は午後の授業だったので午前中は City の街を観光したり、大学の自習スペースやビクトリア州立図書館(とても有名な図書館です)で宿題を済ませたりして、午後はみっちり授業を受けていました。クラスは出発前にプレースメントテストを受けてその結果によりレベル別に振り分けられるのですが、自分は無駄に結果が良かったのか(笑)上級クラスとなりクラスの構成もかなり国際色豊かでした。しかしクラスメイトどうしとても仲が良くいつも楽しい雰囲気だったのですぐに馴染むことができました。授業の内容としては、4 技能の Speaking, Listening, Writing, Reading のそれぞれに焦点を当てたものでした。Speaking は主にプレゼンテーションおよびその準備、Listening は 5 分ほどの長めの英語を聞いてメモを取り、グループワークで内容を要約・理解し問題を解く練習をしました。Writing については 300 字程度の Opinion Essay および 120 字程度で与えられた長文の Summary を書くための方法を一から学びました。Reading は長文読解および単語やイディオムの習得に重きを置いたものでした。どの内容であっても先生が一方向的に説明するわけではなく適宜質問を投げかけたりして、生徒が答えるというような双方向の授業であり、またグループワークとして生徒同士で意見を言ったり、グループで一つの課題をこなすというような非常に活発な授業でした。さらに動画や画像などを頻繁に引用してきて理解の助けとして用いていたのも面白いと感じました。そのほかにもワークショ

ップなどで英語力アップのための講座などが開かれていて、英語のスキルアップを図ることができました。個人的に一番大変だったのはプレゼンテーションでした。三人一組で 1 つのテーマについて 12 分間のプレゼン+質疑応答を行うのですが内容・構成をどうするかスライドや発表の担当の振り分けはどうするのかなど準備段階からグループメンバーが色々な意見を出し合いそれらを擦り合わせていくという過程が新鮮でありかつ自分の意見を正確に伝えるのに苦労しました。発表についても一人当たり 4 分の時間が割り当てられたので、話す内容はもとより単語の発音やイントネーション、抑揚のつけ方など何回も練習しました。プレゼン後の





質疑応答もある程度は準備していたのですが、やはり答えたい内容を瞬時に英語にして話すのが難しかったです。これまで英語でここまで長いプレゼンテーションをしたことがなく、そもそもプレゼン自体あまり得意でなかったのですがジェスチャーや姿勢などについても練習したおかげで少しプレゼンに対する自信がついたような気がします。

生活については 1 ヶ月間全てホームステイでした。ホームステイ先の家族構成は各家庭によって様々でしたが、自分はホストマザー 1 人の家庭だったのでとてもよく面倒を見てもらいました。ホームステイ先から City 中のキャンパスまでは 70 分くらいで、ホームステイ先から最寄駅は歩いて 15 分程度でした。オーストラリアでは水が貴重で他のホームステイ先ではシャワーや

洗濯に制限があるところが多かったのですが、自分のホストマザーはお願いするといつでもシャワーができて洗濯もしてくれたのでその点はとてもありがたかったです。食事については三食作ってくれ、外食するときなどいないときは事前に連絡をして伝えていました。食事の時にはホストマザーと大学での授業のことや、日本の話、TV 番組についてなど色々な話をしました。また、ホストマザーの友達がよく遊びに来ていたので一緒に食卓を囲んで話をすることもありました。ベッドと机があり、整理された一人部屋が用意されていたのでプライベートの時間と空間がきちんと確保されていたのも良かったです。

授業の無い午前中や土日は自由行動なので自分で計画を立てて行動するのもこのプログラムの一つの特徴です。そのため事前に下調べをして、観光はもちろんながら、マーケットでショッピングしたり、現地の大学が提供する観光ツアーに参加したり、クラスでできた友達とご飯を食べに行ったりと有意義な時間を過ごすことができました。観光についてはキャンパスがある City の中だけでもトラムという路面電車を使って巡ることができる範囲でセントパトリックス大聖堂やクイーンビクトリア・マーケット、メルボルン動物園などたくさんの観光名所があり、週末はグレートオーシャン・ロードやフィリップ島自然公園、グランビアンズ国立公園など City から遠出をし、日本では決して見られないような素晴らしい景色などを見ることができました。

今回この 1 ヶ月間の留学を通して感じたのは自分の英語力、特に Speaking の物足りなさや英語で自分の考えを伝えることの重要性です。日本で過ごしていると自分の英語がどれほどのものか感じることができる機会はほとんどないように思いますが、英語で話さなければならぬ環境で如実に現れました。語彙力など明らかに自分の方が知識として持っているはずなのに、いざ話すとすると外国人の生徒は自分の思うところや考えていることをしっかりと伝えていました。自分もなんとか意見や伝えたいことを言葉にしていきましたが、なかなか上手く伝わらなかったり、もう少し喋りたいのにスムーズに英語が出てこないなど、もどかしさを感じる場面がたくさんありました。この留学中の 1 ヶ月だけではなかなか英語力の上達を実感するところまでは至りませんでしたが、日本に帰ってから英語の勉強をする大きなモチベーションになりました。普段から英語で書かれた記事や論文を読んだり、ラジオの英会話を聞いたりするインプットは当然ながら、英語で文章を書いたり、話したりするアウトプットが圧倒的に不足しているのでこれらにも焦点を当てて勉強しなければならぬと痛感しました。また、メルボルンには様々な国から様々な人種の人々が集まっており、多様な価値観を持つ人がいて、City はもちろんですが、キャンパスの中でも触れることができました。新聞やニュース等で見聞きするよりも実際に自分の肌で体感することで視野が大きく広がったのを実感しました。さらに、自分の母国である日本についても外国人に聞かれた際に自分の言葉で説明できるくらいにもっと深く知っておかなければならないと思いました。この留学をゴールにせず、留学中に得た様々な経験や感じたことを糧に自分の目標に向かって少しずつでも成長していきたいと思えます。

最後にこの留学という非常に貴重な経験をサポートして頂いた国際交流課の方々をはじめ、関わって頂いた全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

